

## 下水道施設の耐震対策指針と解説 -2014年版- 正誤表

頁	章	行	誤	正
97	3	上から14行目	(参考3.2参照)	(参考3.1参照)
99	3	上から22行目	(参考3.3)	(参考3.2)
108	3	式(3.4.2)	V:津波に浸かった建築物の堆積(m <sup>3</sup> )	V:津波に浸かった建築物の体積(m <sup>3</sup> )
110	3	3.4.4解説上から16行目	設計荷重については、「ダム堰施設技術基準(案)(基準解説編・マニュアル編)」 <sup>11)</sup> 等を参考に、	設計荷重については、表3.4.4等を参考に
110	3	表3.4.4	「ダム・堰施設技術基準(案)」 <sup>11)</sup> より引用	「ダム・堰施設技術基準(案)」国土交通省ホームページより引用
110	3	表3.4.4の4段目	水撃圧、その他の荷重	水撃圧、津波荷重、その他の荷重
135	4	上から9行目	を $h$ とする。	を $h_0$ とする。
141	4	上から4行目	H :管きよ外頂周点	H :管きよ外周頂点
141	4	式(4.2.28)	$\eta$ :曲げ剛性(EI)の割増率(ここでは、 $\eta=1.0$ とする)	$\eta$ :曲げ剛性(EI)の割増率(ここでは、 $\eta=100$ とする)
145	4	上から11行目	最大耐荷力の上限(M)	最大耐荷力の上限(B)
153	4	式(4.3.10)	$P=K_h \cdot W_b$	$P=K_{hb} \cdot W_b$
184	4	式(4.6.6)	絶対値をとって固定荷重 $\omega_b$ に加える。	絶対値をとって常時荷重 $\omega_b$ に加える。
187	4	図4.6.6	<p>ここに  <math>\omega_b</math>: 固定荷重 (静止土圧+水圧)  <math>\omega_s</math>: 地震荷重 (地盤反力)</p> <p>(常時) (地震時)</p> <p>図 4.6.6 水平断面に作用させる荷重の例 (現場打ち式の矩形マンホール)</p>	<p>ここに  <math>\omega_b</math>: 常時荷重 (静止土圧+水圧)  <math>\omega_s</math>: 地震時荷重 (地盤反力)</p> <p>(常時) (地震時)</p> <p>図 4.6.6 水平断面に作用させる荷重の例 (現場打ち式の矩形マンホール)</p>

頁	章	行	誤	正
244	5	表5.1.3の4段目	重要度係数 $I=1.25$ <sup>注3</sup>	削除
245	5	文章中の引用文献番号	「コンクリート標準示方書 設計編」 <sup>1)</sup>	「コンクリート標準示方書 設計編」 <sup>2)</sup>
245	5	文章中の引用文献番号	「コンクリート標準示方書 構造性能照査編」 <sup>2)</sup>	「コンクリート標準示方書 構造性能照査編」 <sup>3)</sup>
277	5	文章中の引用文献番号	i モデル化補正係数： $(\alpha m)^{1), 25)}$	i モデル化補正係数： $(\alpha m)^{1), 28)}$
283	5	表5.3.8中の引用文献番号	「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」 <sup>23)</sup>	「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」 <sup>25)</sup>
373	8	式(8.4.2)	記載なし	$\gamma_w$ : 地下水の単位体積重量(KN/m <sup>3</sup> )